

人工関節友の会だより



病院長 宮尾益尚



～人生の夢と目標を持って～

「人工関節友の会」会員の皆様の御協力により、平成 25 年 5 月 11 日、第 3 回人工関節友の会イベントを無事終了する事が出来ました。この会は当院もしくは他医療機関で涌井元博副院長を中心とした医師により人工膝関節・股関節置換術を受けられた患者様にお声を掛け、平成 24 年初めに発足、同年 5 月第 1 回友の会イベントを開催したばかりで、まだ 1 年数か月の「若い」プロジェクトでございます。しかし、ここに参加されている患者様の中には、術後 10 年から 20 年近く経過されている方々もおられ、その歴史は「古い」ものです。人間の下肢にとって運命的に起こるとも言える変形性股・膝関節症は、頭も身体も元気なのに股関節や膝関節が痛いために、毎日の人生がどうも楽しくない、といった症状を患者様に感じさせてしまいます。この痛みが無ければ毎日をもっと楽しいのではないかと、痛みを取る方法は何かないのか？といったお気持ちを持たれた患者様と私共の出会いがあり、複数ある治療法の中から「人工関節置換術」という方法が選択されて手術が行われ、患者様と医療サイドのスタッフ（医師・看護部・リハビリテーション部・放射線部など）全員の協力の下、「痛みの無い日常生活」へと進めて行く事が可能となります。これは患者様と医療従事者全員の誰一人でも欠けてしまえば成し遂げる事が出来ませ

ん。満足できる結果を得るまでに術後 3～4 ヶ月の人もいれば、1～2 年かかる人もいます。患者様と我々の「歯車」がしっかりと噛み合せて初めて良い結果へと導かれて行くのだと信じています。

涌井先生がいつも患者様に問いかける「痛みが無くなったら、何がしたいですか？」の言葉。私はこの事が如何に大切かをいつも強く感じています。痛みが無くなったら「旅をしたいね」「山に登りたいね」「踊りを踊りたいね」等々、色々な目標が出てくる事でしょう。今回の友の会イベントでは、会員の皆様から素晴らしい日本舞踊やハーモニカ演奏を御披露頂きました。もしかしたら手術前は関節痛のため、長く踊れない、長く立ってられないという悩みをお持ちだったのかも知れません。しかし当日は痛みを感じていらっしゃる素振りなどかけられなく、笑顔での見事なパフォーマンスを拝見致しました。「今までもやっていたが痛くて続けられなかった」、「今までは痛くてやりたくても出来なかった」という事を可能にする術がそこにあるのではないのでしょうか。人間の人生は確実に永くなっています。どうぞ長生きするなら頭もしっかり、関節の痛みも無く人生を楽しみたいですね。今後も猫山宮尾病院および人工関節友の会への御参加・御協力をどうぞ宜しくお願い致します。

～患者さんと医療者の垣根を越えた交流を目指して～



副院長 涌井元博

「人工関節友の会」は昨年（平成 24 年）5 月に第 1 回集会所が開かれ、スタートしました。その後は半年ごとに行われ、昨年 11 月の第 2 回集会所に続き、本年 5 月に第 3 回集会所が開催されました。毎回、多くの方にご参加いただきありがとうございます。

「友の会」は、人工関節手術後の患者さんが安心して生活するために有用な情報を提供することを目的に発足しました。これまでの集会所でも講演会や運動実技を通して、日常生活上の注意点や体操指導などを行ってまいりました。また、患者さんからの質問にお答えする機会も持たせていただきました。今後も、元気で暮らすための健康維持方法や、人工関節に関する最新情報などをお伝えしていきたいと思っております。

そして、「友の会」のもう一つの大きな目的は、患者さんと医療者との交流を通してお互いの親睦を深めることです。人工関節手術後の患者さんは、少なくとも年に 1 回はレントゲン検査と診察を行なわせていただいております。ただ、通常の外来診察では、内容は毎回同様の場合が多く（毎年変

化のないことは良いことなのですが）、どうしてもわたしたち医療者からの説明が中心となってしまいます。そこで、以前より、患者さんと医療者のより良いコミュニケーションの場が作れないかと考えておりました。患者さんからも積極的に参加していただき、わたしたち医療者と一緒に関心ながら笑顔で話し、感動を共有することによって、より強い連帯感が生まれると思っております。驚き連続の巧みなマジックショー、心にしみ込む美しいハーモニカの音色、華麗で柔らかな日本舞踊。いずれも素晴らしい演技をこれまでの集会所で披露していただきました。まさに全員が大きな感動を分かち合えた貴重な時間だったと思っております。

患者さんと医療者の壁を無くし、お互いの垣根を越えた交流を通してこそ、より深い信頼関係が結ばれた医療が可能となると思っております。「人工関節友の会」が、その一助になることを願っています。また、「友の会」で皆さまの豊かな生活をサポートさせていただき、そして皆さまと一緒に喜びを感じることができるよう、今後とも継続・発展させていきたいと思っております。私たち医療者にとって明日からの診療の励み、それはなんととっても、「皆さまの笑顔」なのです。今後ともご参加の程、よろしく願いいたします。